

2024 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | | 科目区分 | 基礎分野 | 授業の方法 | 講義演習 |
|--|-------------|--|---------------|----------------------|----------------------------|---------------|
| 科目名 | 緩和ケアと終末期看護 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 16 (1) 時間(単位) |
| 対象学年 | 3年次 | | 学期及び曜時限 | 通年 | 教室名 | 各教室 |
| 担当教員 | 伊藤裕子 | 実務経験と その関連資格 | がん化学療法看護認定看護師 | | | |
| <p>《授業科目における学習内容》</p> <p>様々な疾患の全人的苦痛とその家族の苦悩を理解し、緩和ケアの基本について学ぶ 患者とその家族が抱える全人的苦痛・苦悩を理解し、緩和に向けて必要な技術・知識を学ぶ 終末期の特徴、終末期における患者・家族を理解し、終末期の看護を学ぶ</p> | | | | | | |
| <p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>筆記試験・出席状況並びに事前課題レポート、課題提出状況にて総合的に判断する</p> | | | | | | |
| <p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座基礎看護学 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア □ 系統看護学講座 別巻家族看護学(参考図書) <input type="checkbox"/></p> | | | | | | |
| <p>《授業外における学習方法》</p> <p>事前課題、課題レポート 授業の振り返りをまとめる</p> | | | | | | |
| <p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>患者・家族の全人的苦痛とは何か、緩和ケアとは何か、終末期看護とは何か、を考えながら教科書を読み事前学習をして授業に臨むこと</p> | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 授業を通じての到達目標 | 緩和ケアについて概要・倫理的課題をまとめることができる | | テキスト 配布資料 AV機器 | 事前課題に取り組む | |
| | 各コマにおける授業予定 | 緩和ケアの現状と展望 A 緩和ケアの歴史と発展 B 緩和ケアの理念 C 緩和ケアの展望 | | | | |
| 第2回 | 授業を通じての到達目標 | 緩和ケアにおけるチームアプローチ について説明することができる | | テキスト 配布資料 AV機器 | 事前課題に取り組む 授業内容をまとめ復習する。 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 緩和ケアにおけるチームアプローチ A 緩和ケアにおけるチームアプローチの意義 B チームアプローチにおいて求められる専門 C チームアプローチにおけるメンバーシップ | | | | |
| 第3回 | 授業を通じての到達目標 | 身体的・心理的ケア・社会的・スピリチュアルケアについて説明することができる | | テキスト 配布資料 AV機器 | 事前課題に取り組む 授業内容をまとめ復習する。 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 全人的ケアの実践 A 身体的ケア:苦痛をやわらげ日常生活を営むための援助 B 心理的ケア:病によるストレスへの対処の力とその支援 C 社会的ケア:住み慣れた地域での暮らしの支援 D スピリチュアルケア:「生・老・病・死」と向き合う苦を支える | | | | |
| 第4回 | 授業を通じての到達目標 | ライフサイクル・疾患・療養の場における緩和ケアについて説明することができる | | テキスト 配布資料 AV機器 | 事前課題に取り組む 授業内容をまとめ復習する。 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 緩和ケアの広がり A ライフサイクルにおける広がり B さまざまな疾患における広がり C 療養の場の広がり:地域・施設・在宅 | | | | |
| 第5回 | 授業を通じての到達目標 | 臨死期のケアについて説明することができる | | テキスト 配布資料 AV機器 | 事前課題に取り組む 授業内容をまとめ復習する。 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 臨死期のケア (成人・小児・高齢者) A 臨死期の概念とケアの目標 B 臨死期における全人的苦痛の緩和 | | | | |

